

- Insect Fauna of China. Fasc. 18. xiii + 213 pp., 18 col. pls. Science Press, Beijing. (In Chinese)
- Tan, J., S. Wang, & H. Zhou, 2005. Coleoptera, Eumolpidae, Eumolpinae. Fauna Sinica Insect, Vol.40, xvi + 415 pp., 8 Col. Pls. Science Press, Beijing. (In Chinese)
- 上原千春・鈴木邦雄, 1999. 本州中部地方に生息するオトシブミ類(鞘翅目, オトシブミ科)の寄主植物(II). 富山市科学文化センター研究報告, (22): 97-113.
- Warchałowski, A., 2010. The Palaearctic Chrysomelidae – Identification keys. Vol.1, 629 pp., Natura optima dux Foundation, Warszawa.
- 吉崎真紀・小澤朗人, 2010. 茶園におけるマダラカサハラハムシ(マダラアラゲサルハムシ) *Demotina fasciculata* Baly の生活史. 静岡県農林技術研究所研究報告, (3):19-25.
- 湯浅啓温, 1927. 本邦産ハムシ科覚書(第一)ハムシ数種の食餌植物に就いて(1). 昆蟲, 2: 130-132.
- 湯浅啓温, 1934. 本邦産ハムシ科覚書(第三), 昆蟲, 8: 107-109.
- Zheng, H. et al., 2006. Invasive Plants of Asian Origin. Established in the United States and Their Natural Enemies. Volume 1. 2nd ed. 147 pp. Chinese Academy of Agricultural Sciences and USDA Forest Service, Forest Health Technology Enterprise Team. Morgantown, WV. <http://www.fs.fed.us/foresthealth/technology/pdfs/IPAOv1ed2.pdf> (accessed: 2013.3.15.)

(2013年11月18日受領, 2013年12月8日受理)

### 【短報】ニホンケブカサルハムシの新寄主植物

ニホンケブカサルハムシ *Lypesthes japonicus* Ohno, 1958 (ハムシ科, サルハムシ亜科) (Fig. 1) は, 本州・九州・佐渡・伊豆諸島(新島)・対馬・屋久島(?)に分布し, 寄主植物としてヤブツバキ *Camellia japonica* L. (ツバキ科 Theaceae) とケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino (ニレ科 Ulmaceae) が知られている(Ohno, 1958). 本種の寄主植物や生態などに関する1990年代前半までの既知見は, 大野(1994)が纏めている. これら以外にも, 寄主の可能性のある植物がいくつか報告されているが, いずれも確認されてはいないようである(大野, 1994). 富山県下では, 富山市呉羽山, 同城山および城端町からの記録がある.

筆者は, 2012年および2013年の5月, 射水市の県民公園太閤山ランド内で, 本種をケヤキの他, 従来報告例がないと思われる以下の4種の植物の葉上で採集した. いずれもバイアルに無傷の新葉と共にに入れて摂食するか否かを調べたところ, いずれも好食するのを確認したので, 新寄主植物として報告する.

トウカエデ  
*Acer buergerianum*  
Miq. (カエデ科  
Aceraceae)

イロハモミ  
*Acer palmatum*  
Thunb. (カエデ科)

ソメイヨシノ  
*Prunus x yedoensis*



Fig. 1. *Lypesthes japonicus* Ohno, 1958 from 'Taikoyama Land', Toyama Pref., Honshu, Japan. Scale bar: 1.0 mm.

Matsumura (バラ科 Rosaceae)

カスミサクラ *Prunus verecunda* (Koidz.) Koehne (バラ科)

これらは, いずれも同公園が低丘陵地の開発によって造成された1970年代後半以降に植栽されたものである. これらのうち, トウカエデからは多数の個体を, その他の3種からはごく少数個体を採集した. トウカエデとソメイヨシノは, 自然状態で摂食しているのを確認した. トウカエデは, 台湾・中国大陸東南部に自生し, 日本には18世紀前半に入った外来種. 富山県下では, これまでツバキ科からは得ていない. 本種の寄主植物は, いずれも離弁花亜綱に属するものの, 系統的に特に近縁であるとは言えない4科にまたがっている. ここでは, 深く立ち入らないが, 本種は, いわゆる分断狭食性 disjunctive oligophagy を示している.

なお, 筆者は, 大野(1959)や竹中(1971)がコフキサルハムシ *L. ater* (Motschulsky, 1860)について観察報告しているように, 本種も産卵時に, 「後脚で葉裏にぶら下がり, 産下した卵を前・中脚4本で保持しながら糞をなすり付け, 地上に落下させる」習性を持つことを同公園内で数回観察していることを付記しておく.

### 引用文献

- Ohno, M., 1958. On the genus *Lypesthes* Baly from Japan (Coleoptera: Chrysomelidae, Eumolpinae). Jour. Toyo Univ., (12): 173-181, 1 pl.
- 大野正男, 1959. ふんをじょうずに使うハムシの生活, p. 79-116. 岩田久仁雄他編, 甲虫の生活(日本昆虫記IV), 275 pp. 講談社, 東京.
- 大野正男, 1994. ニホンケブカサルハムシの知見総説. 自然誌研究雑誌(日本自然誌研究会), (2/3/4): 81-90, 3 figs.
- 竹中英雄, 1971. 日本産ハムシ科幼期習性からみた系統について. 研究と評論(法政第二高等学校紀要), (13): 41-70, 6 pls. (20+16+12+20+22+10 figs.).

(鈴木邦雄 930-0364 射水市南太閤山 14-35)